

AUE学生チャレンジ・プログラム2019 成果発表会



愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会の実施



大学教育ツーリズムin大館2019



愛教大生による知立市への定住政策提言プロジェクト



フィリピン支援への第一歩〜支援の輪を広げる〜

愛教大生の独創的な企画
1年間の成果を発表します。

2020年2月28 (金)
13:00~15:00 (予定)
本部管理棟3階第一会議室

決 第

- ・ 挨拶
(新井 美保子 学生支援委員会委員長)
- ・ 成果発表開始
(1グループプレゼンテーション5分, 質疑応答3分)
- ・ ポスターセッション
(各ブース, 成果の発表, 質疑応答)
- ・ 選考委員会会議
(第3会議室)
- ・ 表彰式
- ・ 講評
(後藤 ひとみ学長)
- ・ 写真撮影



独創的な企画いっぱい！
プレゼンテーション

魅力たっぷり！
ポスターセッション



1. 活動概要

近年では、ニュースでオリンピックだけでなく、パラリンピックについても報道されることが多くなってきた。しかし、パラスポーツを身近に体験する機会は、ほとんどないのが現状。私たちは、実際に参加することでパラスポーツの楽しさ、を知った。

次は私たちが広めるべき

→パラリンピックに対する関心を更に高めるとともに、共生社会の実現への一歩につなげたいと考える。

2. 実施状況

7月 第1回社協ボッチャ大会 参加

電動車椅子サッカーアカデミー 参加

11月 愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会 開催

1月 ミニパラスポーツ運動会 in 中部大学春日丘高等学校 開催



3. 成果

愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会では様々な人が力を合わせ、協力したことで自然なコミュニケーションが生まれ、相互理解のある共生社会の一歩になったパラスポーツを広めることと共生社会の一歩は踏み出せたと考える。



4. 今後の展望

ミニパラスポーツ運動会の開催依頼、ボッチャ大会の運営補助の依頼、電動車椅子の寄付をしていただいた。愛知教育大学70周年記念パラスポーツ運動会を開催したことで、このパラスポーツを広めていく活動は今年度だけでとどまらず、これからも様々な地域や人に繋げていこうと考える。



5. 団体の構成

代表学生：北谷優希

所属：(2年・特別支援)

構成人数：22人



大学教育ツーリズム in大館 2019

実施状況



メンバー

- | | | |
|---------------|-------------------|----------------|
| 4 上坂茅穂 (情報) | 3 谷口弘花 (音楽) | 2 長谷川万里愛 (美術) |
| 4 山崎求紀 (体育) | 3 田澤萌々花 (音楽) | 2 細野渚 (教育科学) |
| 4 下坂彩花里 (体育) | 3 横田悠磨 (社会) | 2 浅野友花 (理科) |
| 4 前田純樹 (教育科学) | 3 九里桜子 (教育科学) | 2 鈴木雄登 (教育科学) |
| 4 加藤光一郎 (社会) | 3 蟹江哲太郎 (教育科学) | 2 土川朋恵 (英語) |
| 4 村上悠斗 (社会) | 3 ウィリアムズ美里 (教育科学) | 1 佐野みなみ (教育科学) |

概要

「自分なりの教育への魅力を発見する」

のコンセプトの下、様々な教育への在り方に触れることで、自らの教育観を磨くことを目指した。秋田県大館市の視察を中心に事前研修・事後報告会を企画した。教育に関わる職業・キャリア形成について知る機会を設定することで学校教育を捉える視野を広げることを試みた。11月は本学、12月は名古屋大学にて報告会を行った。

今後の展望

ここからがスタート

教育ツーリズムの一連の活動を通して、それぞれが自分なりの教育の魅力を再発見することができた。今後は、それぞれが、魅力を感じる関わり方で行動に移していく。

学内報告会を行なったことにより、今年度参加できなかった学生から、「私も参加したい」という声を多くもらっている。大館市だけでなく、様々な教育現場に行き、教育について考える機会を増やしていきたい。



学ぶための 知識と視点 を持つ

秋田県大館市に行く前に、教員のこれからの在り方、地域連携の教育活動の在り方を考えた。また大館市に「なぜ」行くのか。自分の視点を定めた。

学校は地域の 中に存在する



ふるさとキャリア教育の活動見学

釈迦内小学校の「サンフラワープロジェクト」

下川治中学校の「獅子踊り」

学校と地域が連携するのではなく、地域にある学校が地域を活性化していくという考えのもと活動を行なっていることを学んだ。

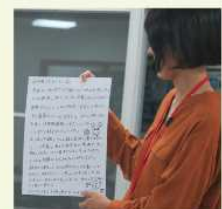


生きる力を 身につける 授業とは？

全国学力トップの教育は、「聞く力」「伝える力」「考える力」を育む子ども主体の授業であった。

「自分なり」とは？

自分の過去・現在・未来に触れ、仲間と対話することで、自分を知った。最後には予祝を行い、これからの自分を描いた。



成果



学びの輪を 広げる

大館での活動後、学内・学外で報告会を行い、学内では約50名、学外では約30名が参加した。活動報告だけでなく、報告会参加者との意見交流や、個人の学びの発表も行なった。

愛教大生による 知立市への 定住政策提言プロジェクト

活動概要

知立市の将来展望に必要な「移住・定住」を中心に調査をし、「第2期知立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」への提言を行いました。

実施状況

- ・転出入データを用いた地理的分析。
- ・アンケートを用いた転出入の要因分析。
- ・広報戦略についての提言。
- ・RESAS利用のための学習。

成果

転出入の地理的データ、転出入者データ、自治体の広報戦略、それぞれの分析をもとに定住促進のための政策やプロセスを考察し、「第2期知立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」への提言書としてまとめ、知立市に提出しました。



提言書提出の様子
(知立市役所)

今後の展望

3月19日に知立市役所で研究発表を行います。

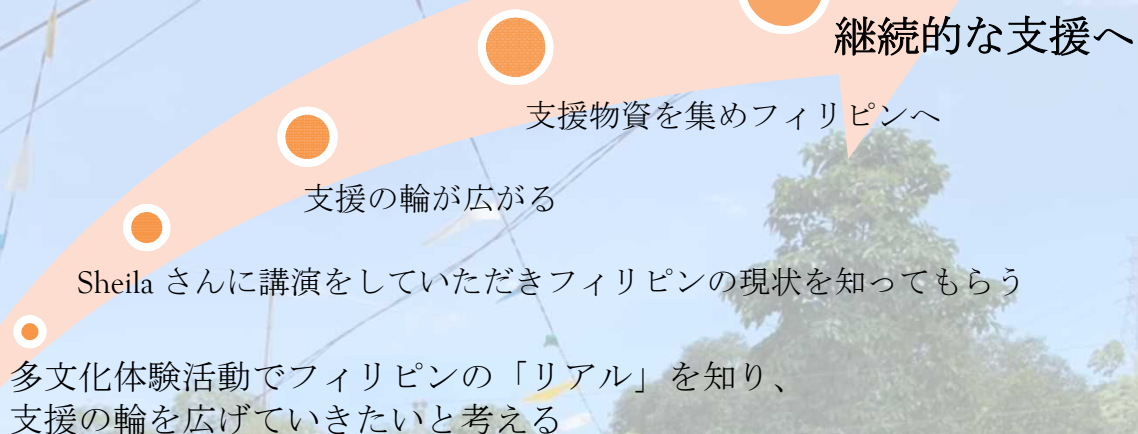
今回は市への発信が主でしたが、今後は本学の学生に向けた発信の場を設けていきたいと考えています。



実施メンバー

村松由菜(国際文化4年)
他学生16名、教員1名。

活動概要



実施状況

- ・11月にフィリピンの大学生Sheilaさんを招聘した。講演会を実施し、CEC代表の池頭氏とともにフィリピンの『リアルな現状』を愛知教育大学の学生たちに伝えていただいた。また、Sheilaさんはトヨタ自動車元町工場の見学や香嵐溪での紅葉観賞、着付け体験などを経験した。
- ・1,2月には支援物資の回収を行い、集まったものは今年度の多文化体験活動でフィリピンを訪問する学生たちに引き渡した。

成果

- ・講演会を通じて、愛知教育大学の学生たちにフィリピンの『リアルな現状』を知ってもらうことができた。また、Sheilaさんには日本の企業での働き方の一例や日本の文化についての理解を深めてもらうことができた。
- ・古着や文房具を中心に、多くの支援物資が集まった。

今後の展望

- ・支援物資は今年度の多文化体験活動に参加する学生たちの手で山村集落の子どもたちの元へと届けられる。
- ・継続的に支援をしていくことでさらに支援の輪を広げていきたい。

団体の構成

代表学生 川崎 拓実(3年 中等保健体育)
構成人員 12名